

O-40 院外看護師の人工呼吸器シミュレーション実習を開催して

飯塚病院 RST

鬼木 美代子、花田 千穂、梶原 優子、池田 夕子、柴田 真理、
日高 幸彦、樋口 圭子、出雲 明彦、鮎川 勝彦

当院では平成 16 年 10 月、病院常設の委員会である呼吸管理委員会の下部組織として呼吸サポートチーム（RST）を設置した。RST は医師、呼吸療法認定士をはじめ理学療法士、臨床工学技士、薬剤師、栄養士など他部門の職員、各病棟の看護師も参加し、総勢 100 名以上がチームとなり呼吸療法における臨床上の質の向上とリスクマネジメントを担っている。RST では設立当初より以下の活動を行ってきた。1. 人工呼吸器演習（ビギナーズコース、A コース）、2. 月一回の定例勉強会、3. 人工呼吸器チェックリストの院内統一、4. 人工呼吸器データベースの作成及び運用、5. 物品の整備、6. 呼吸管理について主治医を通して依頼された症例の回診、7. 看護支援チームによる病棟巡回。A コース、月一回の定例勉強会についてはこれまでも近隣の病院の看護師に情報を提供してきた。これらの活動の一部をさらに多くの外部の方々に開放し、当院のスタッフと共に人工呼吸看護、医療の質の向上につなげたいと思い、院外看護師を対象とした「救急医療における呼吸管理研修」を実施した。研修は平成 19 年 2 月 24 日に開催された。プログラムはこれまで院内で行ってきた医師、ICU 勤務の呼吸療法認定士による講義、A コースをもとに作成、午前中は計 2 時間の講義、午後は演習を行った。演習の内容をより充実させるため、新たに B コース、C コースを作成し、各 1 時間コース、計 3 時間の演習を行った。募集は

インターネットと福岡県内の病院へダイレクトメールで行った。12 名の定員のところ、100 名近くの応募があり、看護師の関心の高さ、需要の大きさを感じた。受講者のうち 2 割の方は人工呼吸看護の経験がなく、また半数以上の方が人工呼吸器が専門外の場所で勤務されており、ここでも看護師の関心の高さを知ることができた。A コースは少人数性 1 時間コースで、勤務を離れた off-the-job-training として開発されたものである。院内ではこれまでに看護師約 900 名、医師約 60 名が受講している。A コースでは IPPV、NPPV それぞれの回路の構造、基本的な呼吸器設定値を学び、患者体験を行った。B コースでは人工呼吸器のグラフィックモニタの理解、モードの理解と設定、ウイニング、換気体験、抜管の介助を行った。C コースではカフ圧計の使用法、気管吸引の方法、排痰のためのポジショニング、患者体験を行った。研修終了後のアンケートでは 9 割以上の方が楽しかったと答えた。今後職場で活かせるかという問いには全員が「活かせる」と答えた。楽しくてあっという間に終わった、自部署でも新人教育に使えそうといった感想もあった。人工呼吸器に関する off-the-job-training は多くの病院では行われておらず、今後も院外看護師に向けて人工呼吸看護に関するシミュレーション実習を継続していく必要があると思われる。